

——カマキリ見つけた！——

2021年9月4日…散歩から帰ると、玄関フード内で驚きの光景が？茶色で動きの悪い虫（すぐに正体は判明）弱っていたオオカマキリだったので、会長に連絡→『砂糖水を与えるように』との事。食べ終えた蜂蜜の瓶に水を入れ→綿棒に浸し口のそばへ→勢いよく吸いはじめたので、上から紙をかけそのままに。翌には、元気になり移動。それからは職場の幼稚園へ連れて行く。

カマキリは、生きたエサしか食べないので虫探しの毎日が続いた。チョウ・トンボ・バッタ・ガ等々、子ども達は喜び、絵を描いたりエサを捕まえてきた。迫力があつたのは、トンボを捕まえて食べる様子だった。皆目を丸くして観察した。タイミング良く、Eテレでは『カマキリ先生』が登場。私自身も、本や捕虫網を購入して楽しんだ。

10月…エサをあまり食べなくなり、6日ついに産卵！有精卵なら、春には次の命につながる可能性が。カマキリは我が家の庭に放した。

9月19日…ビオトープ入り口で、きれいな緑色の2匹目を発見。封筒に入れ連れて帰る。偶然『カマキリが欲しい』と話していた、報道関係者に渡した。

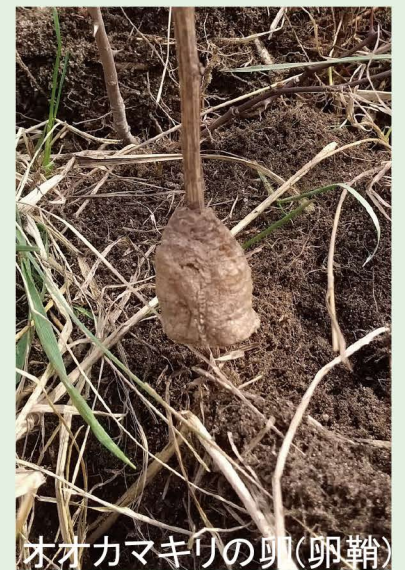
このカマキリも、子ども達に可愛がってもらったらしい。そしてやはりメスで産卵したそう。

周囲はコロナ感染騒動だったが、しばらく貴重な体験ができ幸せだった。今年はどうな出会いがあるか期待している。

（菊地敦子）



オオカマキリ



オオカマキリの卵(卵鞘)

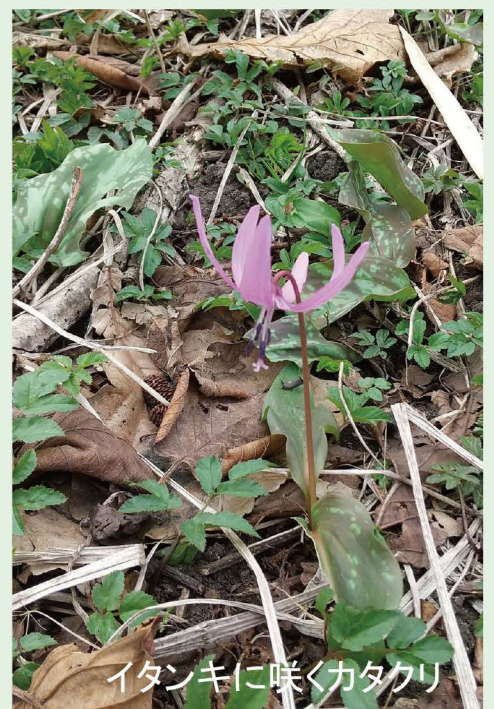
——カタクリとエンレイソウの種取り——

花が終わり、種ができる6月末から7月にかけて、地球岬や港南町方面に種子の採取に出かけるのも、ビオトープ・イタンキの行事の一つです。

2021年は、6月19日にカタクリの種を、7月2日にエンレイソウの種を見つけにでかけました。6月にもなれば、周囲の草々もかなり茂り、葉の形を頼りに種を探し出すのは、なかなか根気がいります。山肌をよじ登るようなこともあります。鳥の声を聞きながら、緑のシャワーを浴びる癒しの時間でもあります。

採取した種は、ビオトープの周辺に播いてありますが、どちらも、芽が出て花が咲くまで7～8年かかるということで、先の長い楽しみです。

（渡辺英子）



イタンキに咲くカタクリ